



日本シイムケイ株式会社
(証券コード：6958)

2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2024年11月13日

日本シイムケイ株式会社

1. 2025年3月期 上期連結業績
2. 2025年3月期 連結業績見通し
3. 車載成長戦略
4. 新事業領域成長戦略
5. 補足資料

1. 2025年3月期 上期連結業績

① 連結業績サマリー

■ 決算のポイント

- ・売上高は、注力分野の走行安全系（+14%）向けの販売が順調に推移したことや為替影響などにより、増収
- ・利益面では、生産工場の稼働率は低調に推移しているものの、生産性向上や為替影響などにより、増益

(百万円)	24/3期 上期	25/3期 上期	増減額	増減率
売上高	43,216	46,276	+3,059	+7%
営業利益	571	1,766	+1,195	+209%
率	1.3%	3.8%	+2.5%	-
経常利益	1,677	3,762	+2,084	+124%
当期純利益	759	2,595	+1,835	+242%
平均為替レート (USD/JPY)	136.54	154.08	+17.54	+13%

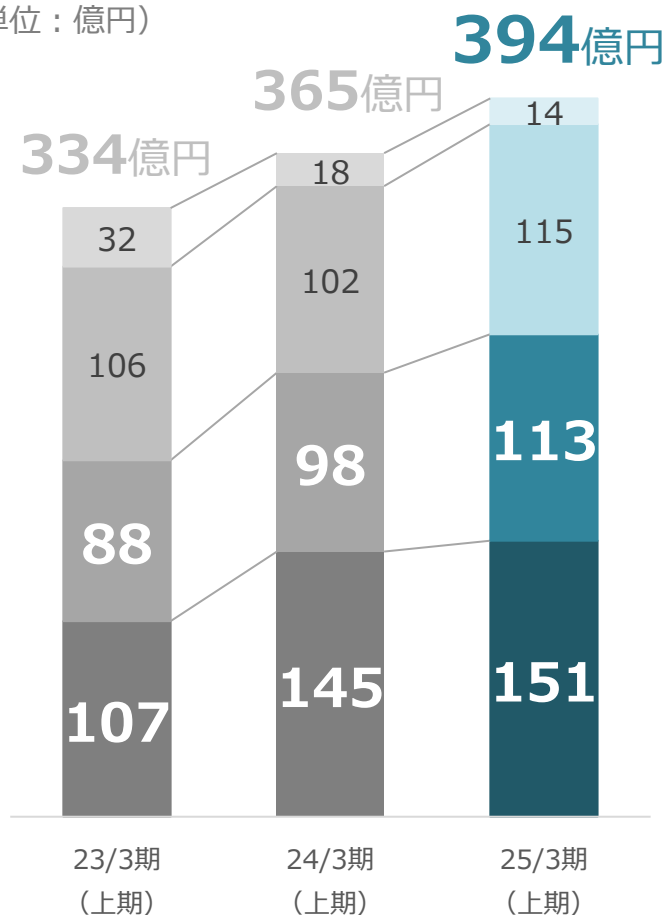
②車載用途別・基板種別・外資顧客別推移

競争優位性のある「パワートレイン・走行安全系」の売上は順調に増加
付加価値の高いビルドアップの売上構成比も向上、顧客ポートフォリオの多様化推進し、ミックスは改善

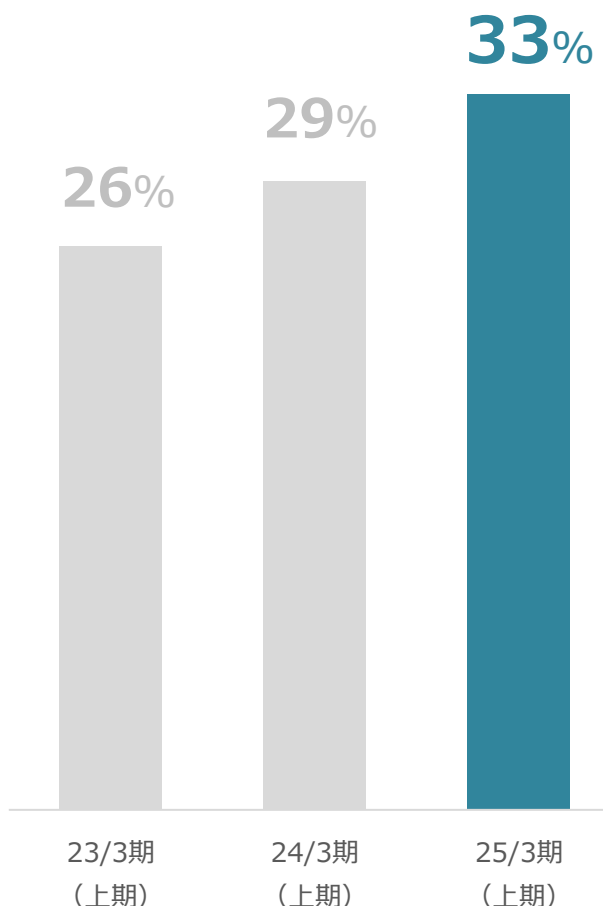
車載用途別売上高

■パワートレイン系 ■走行安全系 ■ボディ快適系 ■情報通信

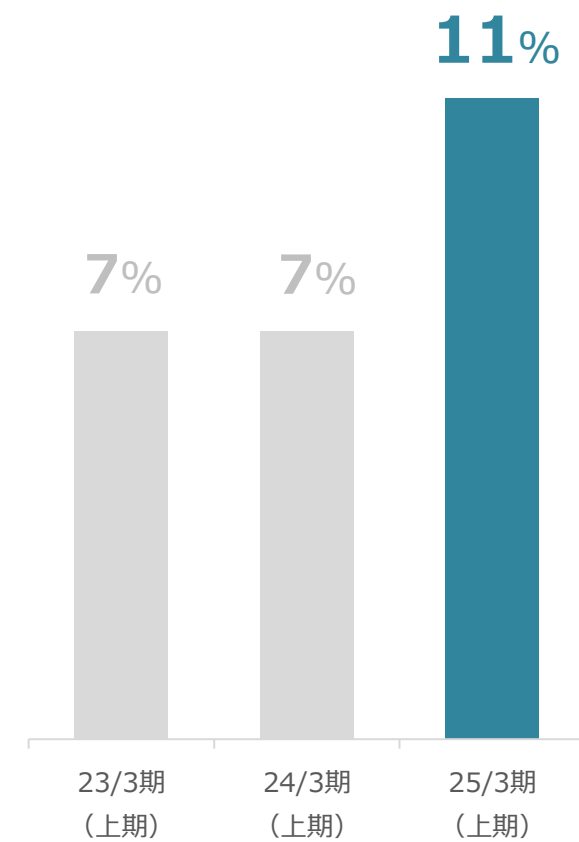
(単位：億円)



車載ビルドアップ売上構成比

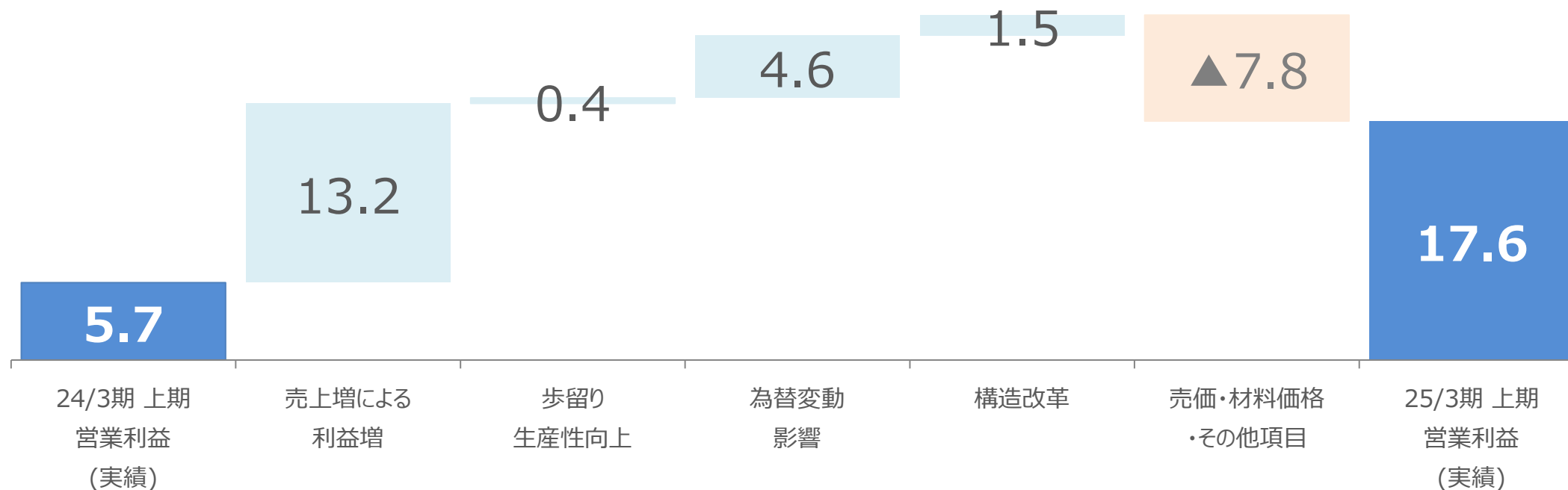


外資顧客別売上高構成比



③ 営業利益増減分析

(単位：億円)



・売上増による利益増には、ビルドアップ売上高構成比アップによるミックス改善効果含む

2. 2025年3月期 連結業績見通し

① 連結業績

■ 下方修正理由

- ・日本の車両認証問題などを背景に、自動車生産台数は伸び悩み
- ・中国経済の減速など、景気停滞によりアジアや欧州における自動車需要回復が鈍い

(百万円)	25/3期 上期見通し	25/3期 下期見通し	25/3期 通期見通し	25/3期 上期実績	25/3期 下期見通し	25/3期 通期見通し
売上高	45,000	49,000	94,000	46,276	45,723	92,000
営業利益 率	1,500 3.3%	3,500 7.1%	5,000 5.3%	1,766 3.8%	2,033 4.5%	3,800 4.1%
経常利益	1,100	3,100	4,200	3,762	1,037	4,800
当期純利益	750	2,750	3,500	2,595	904	3,500
平均為替レート (USD/JPY)			145.00	154.08	148.00	

②事業環境の変化に対する対応策

販売面

- ・中長期的なCASE需要の取込みに向けた新規アイテムの受注
- ・新規外資顧客への積極的な受注活動継続
- ・車載以外の事業領域確立に向けた拡販推進

利益面

- ・生産性向上やコスト抑制の徹底
- ・無錫工場の設備入替による大判化生産の前倒し
- ・タイ新工場は、需要に応じた量産立上げによる固定費抑制

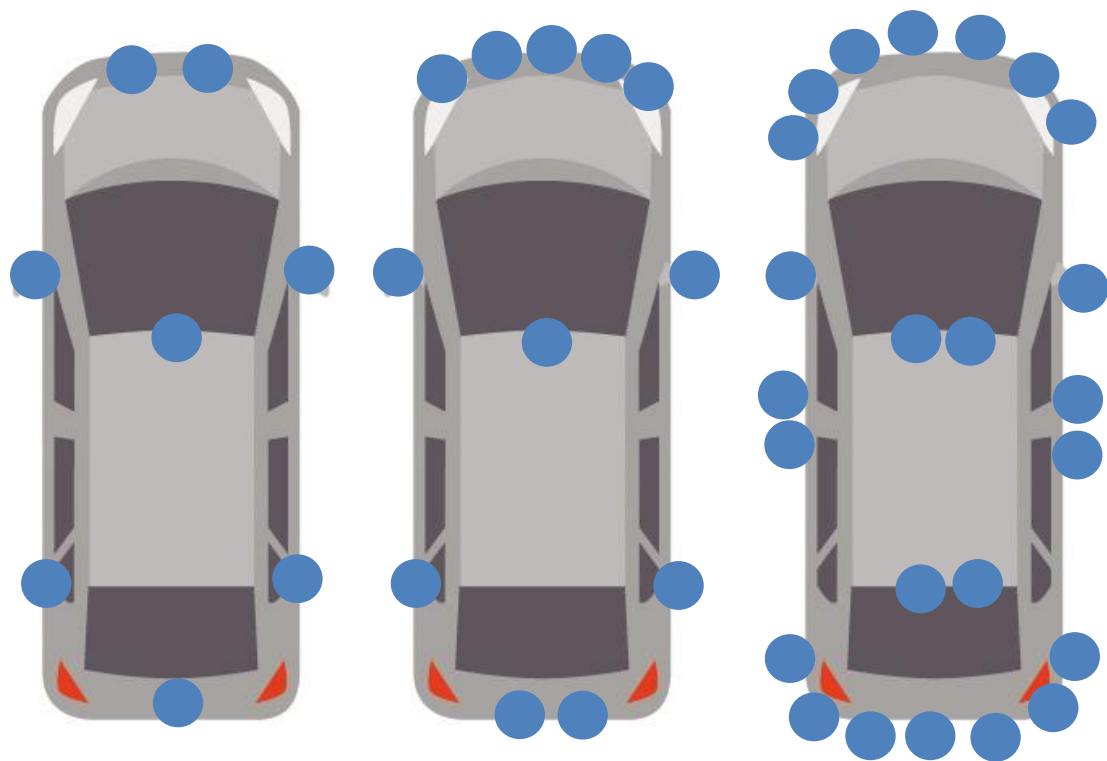
3. 車載成長戦略

車載の潮流①



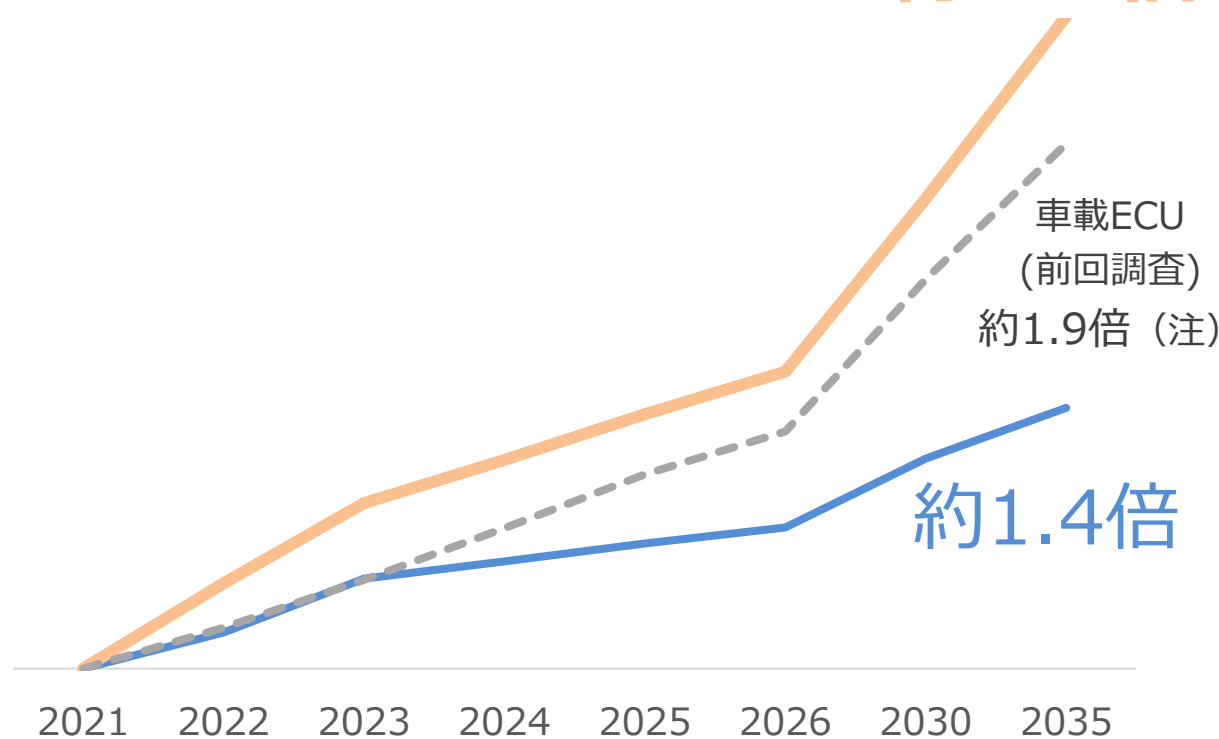
自動運転機能などの制御複雑化により、 ECUの搭載数は自動車生産台数を超えるペースで増加

＜自動運転レベル及びセンサー、カメラなどの数量イメージ＞
(当社推定)



＜自動車生産台数・車載ECU指数推移＞

—生産台数 —車載ECU **約2.1倍**

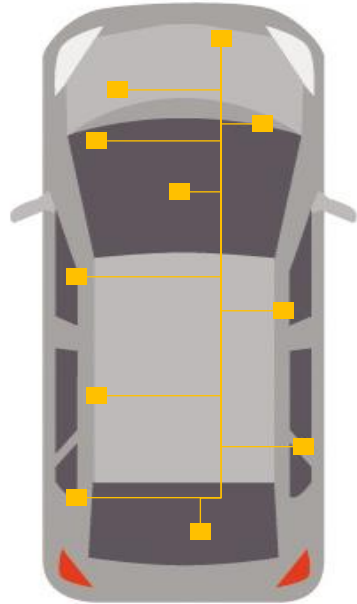


2021 2022 2023 2024 2025 2026 2030 2035

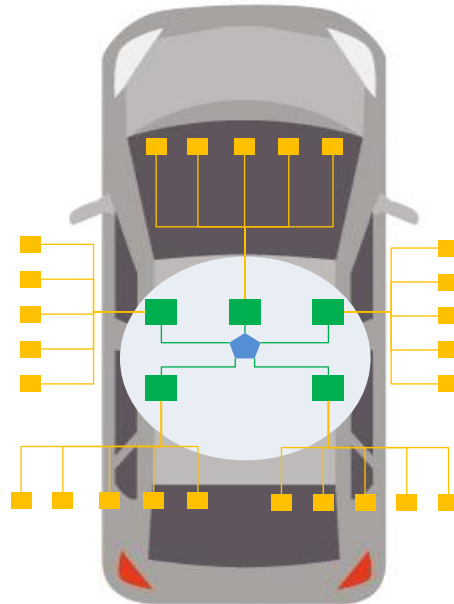
* 2021、2022年は実績、2023年は見込、2024年以降予測
 * 出所「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査 2024 下巻」富士キメラ総研
 (注) 2021年実績値及び車載ECUの前回調査出所
 「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査 2023 下巻」富士キメラ総研

車載の潮流②

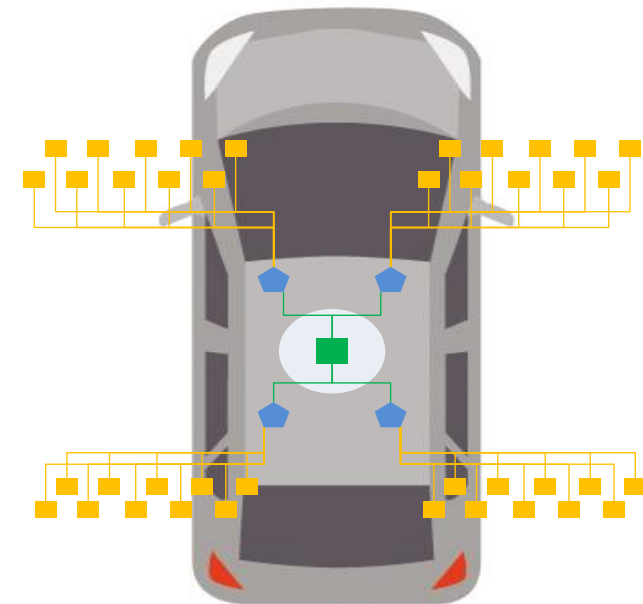
分散型アーキテクチャ



ドメイン型アーキテクチャ



ゾーン型アーキテクチャ



- 個別ECU
- 統合ECU
- ◆ ゲートウェイ

現状

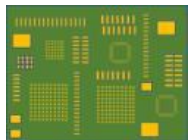
2025年

2030年

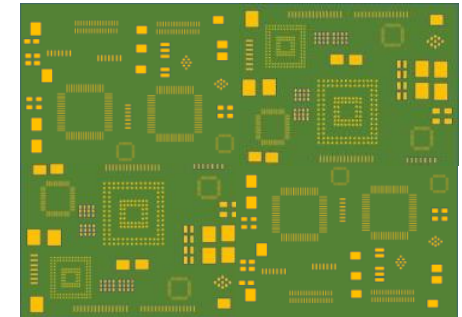
ECUの高機能化が進み、プリント配線板に対しては、様々な要素技術が必要とされる
『製造技術の上位互換性』
⇒ビルドアップ配線板のニーズが拡大

ECUの高機能化が進むと共に、ビルドアップ配線板の多段化・大型化が求められる。

層構成イメージ	1段ビルドアップ	2段ビルドアップ	3段ビルドアップ	4段ビルドアップ
	6層 1-4-1	8層 2-4-2	10層 3-4-3	12層 4-4-4
	現状車載ECU	ADAS向け	統合ECU	



製品サイズも大型化
(従来ECUの4~5倍)



車載成長戦略（事業機会とターゲットアイテム）

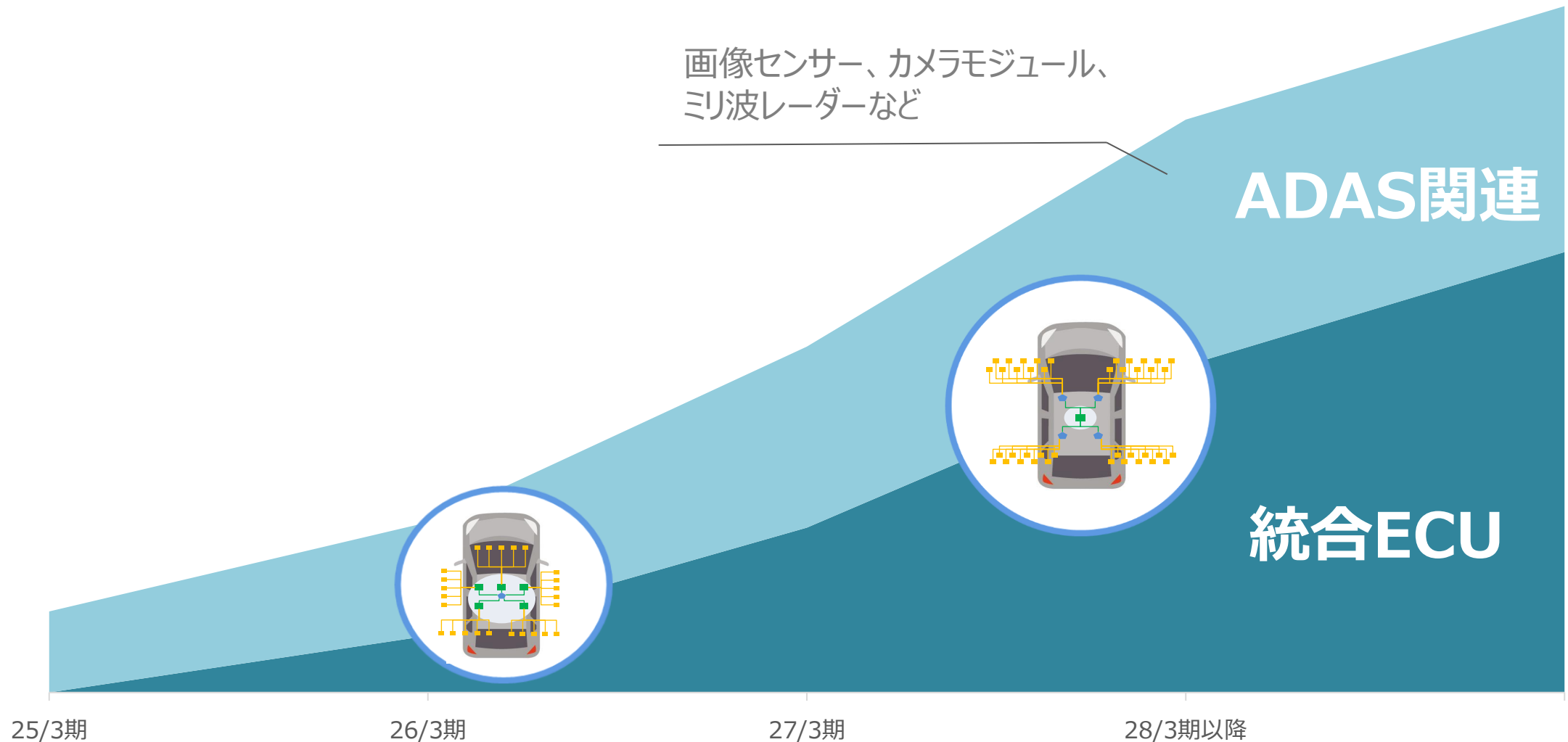


用途	パワートレイン系	走行安全系
<p>当社の強みと実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車載要求を理解したモノづくりと品質マネジメント ・日本、中国、タイの3拠点において同一製品、供給可能 ・顧客対応スピード、生産技術力 ・安定した財務基盤に基づく、長期の製品供給、保証体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・車載向けビルドアップ配線板に対応しうる品質、供給体制 ・日系、欧州Tier1メーカーとの技術開発～量産立上げ
<p>事業機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CASE進展に伴い、プリント配線板の使用量は大幅に増加 ・ECUの統合化などによる高機能化（ビルドアップ配線板のニーズ拡大） 	
<p>ターゲットアイテム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駆動系 統合ECU ・BEV/HEV系ECU ・インバーター、DC-DCコンバーター ・駆動用二次電池（バッテリー） ・パワーコントロールユニット（PCU）など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ADAS 統合ECU ・画像センサー、カメラモジュール ・ミリ波レーダー、LiDAR ・ドライバーサポートシステムなど

車載向けビルドアップ配線板の新規受注見込イメージ



- ・付加価値の高いビルドアップの多段品を受注見込
- ・日本・中国・タイの3拠点から供給、各生産拠点の収益性向上に寄与



タイ新工場の状況について



顧客承認活動中

既存工場

新工場

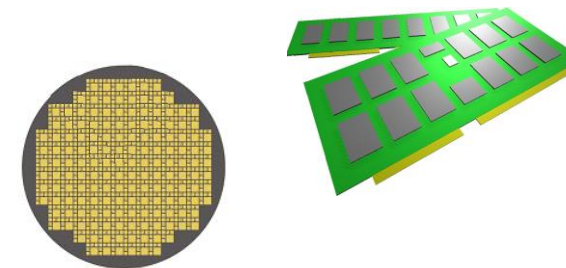
4. 新事業領域成長戦略

新事業領域成長戦略

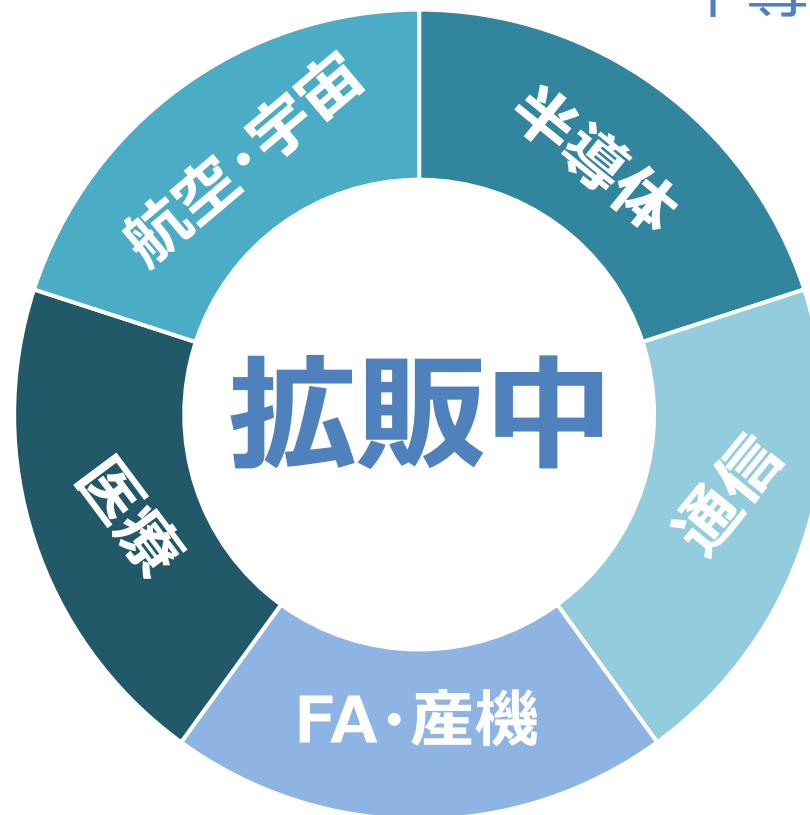
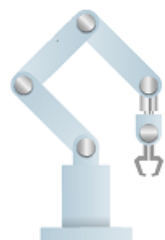
- ・小型衛星推進機、evTOL、大型ロケットなど



- ・半導体検査装置、半導体プローブカード、半導体テストボードなど



- ・ECMO、MRI、分析装置、AED、内視鏡など



- ・通信アンテナモジュール、データセンター、高速通信機器など



- ・産業用カメラ、産業用PC、センサ、ロボットなど



5. 補足資料

サステナビリティへの取り組み



当社は、環境保全活動を経営の重要課題の一つと認識し、その基本姿勢を明確にするために、「環境方針」をもとに、「中長期環境行動計画」を策定し、環境保全活動を推進しています。地球との共生を果たしながら持続可能な社会の実現に向けて従業員一丸となり取り組んでいます。

カーボンニュートラルへの挑戦



CDP「気候変動レポート2023」にて「B」スコア獲得

企業の環境問題への取り組みを8段階（A、A-、B、B-、C、C-、D、D-）にて評価
Bスコアとは「自社の環境リスクやその影響を認識し行動している」ことを示しています。



*参考：グローバル・電子部品業界平均「C」

本資料における将来情報は、2024年11月時点での見通しであり、
その実現を保証するものではありません。

(金額は切捨て、%は小数第二位を四捨五入にて表示)

END